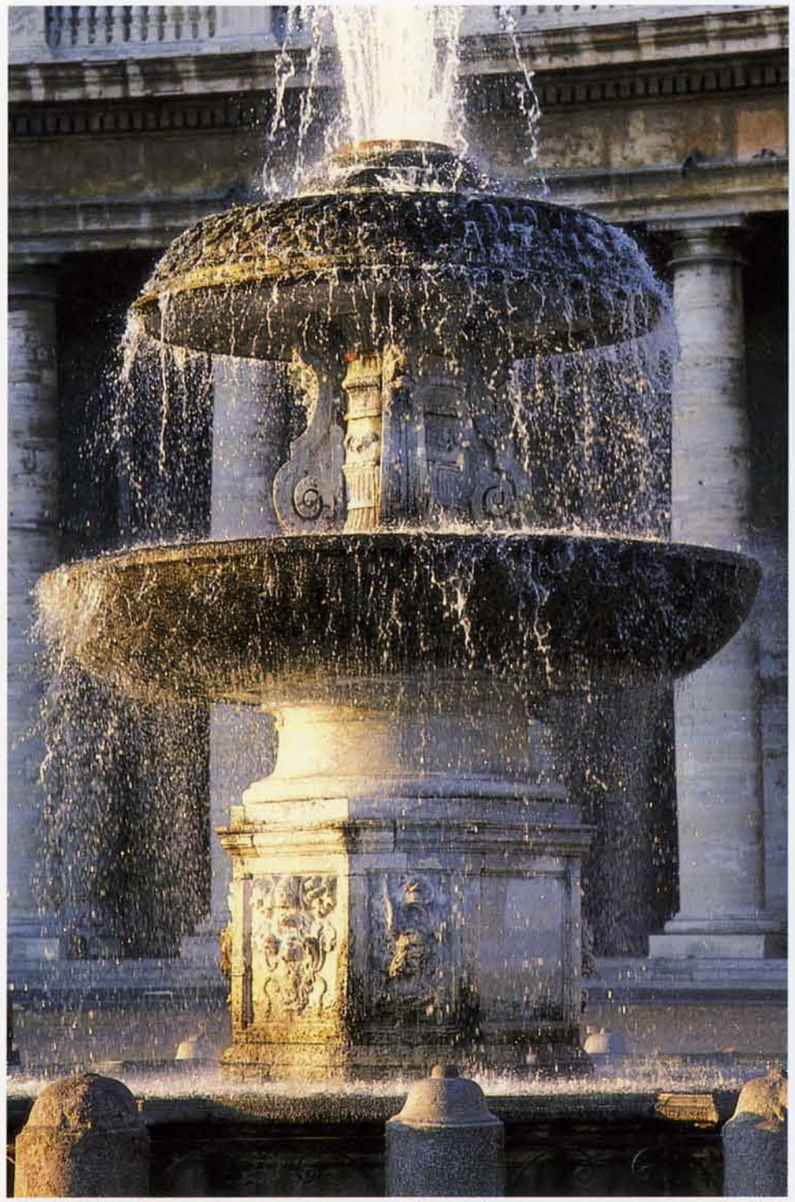
時代に先駆けるデザイン感覚は どこから生まれてくるのか、イタリア



パリ、ロンドン、トーキョウ……
そして、おしゃれ人間たちが注目する都市のなかでも、とびっきり元気いいのがミラノ。機能と同等か、あるいはそれ以上の視覚的かつ感覚的な温もりに満ちた衣服や小物たち。いま小粋なイタリア感覚が世界中でうけにうけています。

この国だから勃興したルネッサンス

人間性の尊重・解放をめざしたルネッサンス運動が、ここイタリアから興ったというのも、彼らの生き方をみているとなんとなく分かってくる。遊び感覚あふれるデザインは、他の追随を許さない。今日言うところのルイ14世風、バロック風、ゴシック風なども当時としては、時代の最先端を走った美意識だったに違いない。それらを受け入れ育む土壌。これはもう国民性とでも言うしかないだろう。中世の面影を色濃く残した建造物が至る所にある。そこに現代の前衛が何の違和感もなく中世と融和している。羨しいかぎりだ。彼らの美的センスと遊び心。それは、ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア、そしてミラノ……街そのものが、歴史博物館というべき景観によって育くまれたのだろうか。街を造るとき、城の次になによりもまず劇場を造ったという古代ローマ人の伝統を受け継いだ精神を背景に、さまざまな分野で私たちの美意識を刺激するイタリア。今、最も元気な国のひとつと言えるだろう。

衣服さえ建築オブジェクト(目的)だ! と規定するデザイン感覚には、いやはや脱帽

人生をエンジョイすることが、総てに優先するのがイタリア人だ。正午から3時すぎまでオフィスを閉め昼休みをしている姿や、パンテオン前で夜おそくまでおしゃべりに興じている彼らを見ていると、なるほどと思ってしまう。そんな人生エンジョイ派精神が、イタリアをデザイン王国にしたのかもしれない。アーキテクチュアル・ファッションという分野を切り開いてきたデザイナーの一人、チンツィア・ロジェリなどは、衣服を建築オブジェクトと規定し、その考えの延長上に靴、アクセサリーなど身にまとうすべての形態を、類型的なデザインから解放している。つまり「形態は機能に従う」という近代デザインを真っ向から否定しているのだ。彼女がつくる衣服はとにかく奇抜すぎるほどのデザインなのだが、それらを受け入れる土壌がこの国にはあるから、イタリアはすばらしい。

●ビーゼ・コルク抜
実用品までこんなに小粋、飲みたくなくても思わず栓を抜いてしまいそう。かるく明るいイタリアンデザイン。

●ティギャラリー
素材も形も新鮮、オブジェとしても美しいトレイ。

●カルロ・スカルパ
イタリアの伝統的自然派スタイル。ハイグレードなインテリア感覚が楽しめます。

●ALESSI(アレッシ)
おいしいエスプレッソをお行儀よくいただく。使いやすいデザインが気持よし。リチャード・サッパーによるデザインはニューヨーク近代美術館で永久保存。

●E.COLLINI
(コリーニ)
無駄がなく、しかも優美。使いやすさも合わせて、すぐれものデザインです。

●ROMINA(ロミーナ)
ボールペンとステープラーがドッキング。遊び好きのイタリア人がつくるとボールペンもこうなる。

●DOVE(ダブ)
おしゃれなイタリアンレッド、さすがのセンスに居眠りなし。遊びごころ満点の微妙なカーブが美しい。機能も一応考えてある。

●IDE MARIA(イデマリア)
最新の技術と伝統的な感性の融合によってまさにイタリアは現代の練金術王国。持ってるだけでうれしいイデマリアのアクセサリーは只今、大人気。

●CESARE PACIOTTI
(セザールパチョッティー)
よい素材を選び、そしてていねいに仕上げる。イタリアの職人気質がよくわかる一足。「スィーボ・丸山」提供

イタリア、大好き